



# 熊本市 感染症発生動向調査 速報



ヘルパンギーナがこれからピークを迎えます。RSウイルスも引き続き増加中です。

## ●ヘルパンギーナ

コクサッキーウイルスやエコーウイルスなどの、エンテロウイルスの感染によって、口の中の粘膜に小さな水ぶくれ（水疱）ができる感染症です。4歳以下の感染がほとんどで、1歳が一番多い傾向にあります。

### ◆どんな病気？

- ・症状………突然の発熱（38～39℃）に続いて、のどが赤く腫れて痛み、口の中の粘膜に直径1～2mmほどの小さな水疱ができます。水疱が破れて浅い潰瘍になると痛みを伴います。
- ・潜伏期間…2～4日程度
- ・感染経路…感染者のくしゃみのしぶきや鼻水、水疱、便の中に含まれるウイルスが、手などを介して口や鼻の中に運ばれることによって感染します。症状がなくなったあとも、2～4週間は便の中にウイルスが排泄されます。
- ・流行期……夏～秋に流行が見られます。5月頃より増加し始め、6～7月にピークがあり、8月以降は減少します。



### ◆かかったらどうすればいいの？

・ほとんどの場合、特別な治療は必要なく自然に治りますが、まれに髄膜炎や心筋炎を合併することがあります。元気がなくぐったりしていたり、頭痛や嘔吐、高熱、脱水症状があるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。

・口の中を痛がって、水分や食事がとれなくなることがあります。薄味でやわらかいもの、白湯やスポーツ飲料などをこまめにとらせ、脱水にならないようにすることが大切です。

### ◆予防法は？

・手洗いが基本です。特に感染者の排便後の手洗いが重要です。感染している子どものおむつを取り替えたり、鼻水をとったりした後は、しっかり手を洗いましょう。

期 間		平成30年 30週		平成30年 31週	
		7/30～8/5		8/6～8/12（最新）	
疾患名 <small>（百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました）</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		2	0.08	1	0.04
RSウイルス感染症		20	1.25	29	1.81
咽頭結膜熱（プール熱）		3	0.19	7	0.44
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		9	0.56	21	1.31
感染性胃腸炎		63	3.94	58	3.63
水痘（みずぼうそう）		4	0.25	2	0.13
手足口病		39	2.44	35	2.19
伝染性紅斑（りんご病）		0	0.00	1	0.06
突発性発しん		8	0.50	7	0.44
ヘルパンギーナ		25	1.56	33	2.06
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		3	0.19	1	0.06
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎（はやり目）		25	5.00	21	4.20
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	1	0.20
クラミジア肺炎（オウム病を除く）		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0	0.00	0	0.00